

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」函南校		
○保護者評価実施期間	2024年 11月15日		~ 2024年 12月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	2024年 11月 1日		~ 2024年 11月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 13日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者の方の療育の見学、参加を基本としています。お子さまの成長や課題を職員と共通認識し、保護者の方のその都度の困り感や心配ごとなどを共有し、助言等を行っています。	園やご家庭でのお子さまの様子を積極的にお聞きし、得意なところを伸ばし、苦手とするところなどは取り組みやすい方法で提供できるよう心がけています。 就学準備に必要と思われることを取り入れています。	研修などを通して、職員のコミュニケーション力のスキルアップや知識の向上を目指し、より良い支援内容の提供、保護者の方との対話ができるようにしていきます。 必要に応じて、関連機関との連携を密にしていきます。
2	既存の教具に加えて、おさま一人ひとりに合わせた教材を職員が手作りしています。スモールステップやピンポイントでの療育を可能にしています。	おさまの困り感を事業所内で共有し、どんな方法がいいか、どんな提示の仕方が有効か常に話し合ったり、考えたりする機会を設けています。	新しい教具の購入を検討したり、既存のものについても使い方や活用の仕方などを学習したり、確認したりする機会を設けます。 系統的に教具を分類、収納し、作成したものが重複しないようにしていきます。
3	研修が充実しています。職員の勤続年数や役割に応じた研修がそれぞれ年数回行われています。また、関係機関を通じての研修も行われ、事例検討などを含めて、年10回以上の研修に参加することができます。		

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	集団の中でのおさまの様子が捉えにくいことがあります。	事業所として個別療育が中心になります。	保護者の方のお話や相談支援事業所のモニタリング等を参考に、ご本人の困り感を把握し、集団活動への適応できるような支援内容を盛り込んでいきます。 事業所内での小集団療育を検討して参ります。 関係機関等の連携を密にしていきます。
2	玄関口に段差があり、トイレなどもバリアフリー化されておらず、部屋ごとに支援スペースが異なります。		玄関前の段差の昇降が不安定な方に対しては、その都度配慮しています。トイレはお子様用の便座を用意しております。 バリアフリー化が不十分なところは必要に応じて検討していきます。 活動場所に不公平感が出ないように毎回おさまの利用場所を記録しています。支援スペースにあった支援内容を工夫していきます。
3			

公表

## 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 子どものサポート教室「きらり」函南校

公表日 2025年 2月 15日

利用児童数

16

回収数

14

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	13	1	0	0		
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	12	0	1	1		
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	11	2	1	0		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	13	1	0	0		
適切 な 支 援 の 提 供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	13	0	1	0		
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	13	0	1	0		令和7年3月15日までにHPなどで支援プログラムについて公表する予定です。
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	13	0	1	0		
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	13	0	1	0		
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	12	2	0	0		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	12	2	0	0		これからも複数の職員がプログラムの立案に関わり、固定化しないように工夫していきます。
	11 保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がありますか。	5	2	1	6		事業所で機会を設けることは行っていませんが、集団活動などへの参加や適応を目指す支援を行っていきます。
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	13	1	0	0		
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	13	1	0	0		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	8	2	2	2		
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	12	2	0	0		
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	13	1	0	0		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	13	1	0	0		
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	4	3	6	1		

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	12	1	1	0		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	13	1	0	0		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	7	0	1	6		月2回、HPで活動の様子や予定などをブログにて発信しています。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	12	1	0	1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	10	3	0	1		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	9	1	1	3		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	12	0	0	2		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	11	1	0	2		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	14	0	0	0		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	14	0	0	0	とても楽しみに通っています。	これからもお子さまの興味、発達に合わせたプログラムを工夫していきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	12	1	1	0		

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	こどもサポート教室「きらり」函南校					公表日	2025年 2月 15日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		提供できる部屋の空きを常時把握し、十分なスペースが取れない場合は、別日や別の曜日のご利用をご案内しています。			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		状況によって、支援と家族フォローに別の職員が対応し、連携をとっています。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		玄関前の段差の昇降が不安定な方に対してその都度配慮しています。	玄関前やトイレなどバリアフリー化が不十分なところは必要に応じて検討していきます。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎朝の清掃に加えて、支援間に室内の清掃及び消毒をしています。一人ひとりに合ったレイアウトを考え、環境作りを行っています。	パーティションで仕切られた空間では、机の配置などを工夫し、他のお子さまの様子になるべく気にならないようにします。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○					
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○					
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		HPで公開し、事業所内でも閲覧可能です。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○					
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		今後必要に応じて行います。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		初任者研修、階層別研修、テーマ研修、事例研修等を定期的に行っています。外部研修を受ける機会もあります。			
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		各自の発達段階や課題に沿って、毎回支援プログラムを作成しています。	令和7年3月15日までにHPなどで支援プログラムについて公表する予定です。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		外部の検査結果も参考にしています。			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		モニタリングや支援会議など複数の職員が検討しています。			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		支援に入る職員は、支援前に毎回支援計画を読み返しています。			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		会社独自のアセスメントツールを使用しており、保護者の方からヒアリングしたことをその都度更新しています。			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○					
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		個別療育が中心であるため、当日の担当職員が主にプログラムの立案を行っていますが、定期的に支援内容の検討を複数の職員で行っています。			

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		今年度は4回程度の小集団療育を予定しております。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		朝のミーティングで、その日の予定や注意事項などを確認しています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		翌朝にミーティングを行い、支援の振り返りや改善点を共有しています。内容を記録し、公休の職員にも周知できるようにしています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		個々の支援記録とは別にフィードバック時の記録を作成し、情報共有、支援内容の改善につなげています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		協力を得られる機関や相談支援事業所を介したり、保護者を通じたりして、その都度情報共有を行っています。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		協力を得られる機関や相談支援事業所を介したり、保護者を通じたりして、その都度情報共有を行っています。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		協力を得られる機関や相談支援事業所を介したり、保護者を通じたりして、その都度情報共有を行っています。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○			
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○		事業所で機会を設けることは行っていませんが、集団活動などへの参加や適応を目指す支援を行っています。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		保護者の方に支援を見学する機会を設け、お子さまの発達や課題についての共通理解に努めています。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		保護者の方に支援を見学する機会を設け、感想や意見をお聞きしながら、必要に応じて助言やお子さまに対する対応方法などについてお話しています。	家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)を系統的に学ぶ機会を検討していきます。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○				
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○				

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○	小集団療育の中で、保護者の方同士が交流を持てるような場を設けました。ごきょうだいでご利用の場合は、一緒に活動する場を設けています。	現在、定期的に開催等は致しておりませんが、情報を共有できる場の提供などを検討して参ります。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		月2回のHPでブログを発信しています。事業所の予定やお知らせを不定期にお伝えしています。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		随時、見学などを受付けています。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		月に1回防災訓練を行なっています。定期的に防災委員会を開催しています。各種マニュアルは施設内に掲示しています。感染症委員会を設置し、定期定例会の開催、研修を行っています。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCPIに対する研修を行っています。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○	食物アレルギーについてのアセスメントを取っています。 ※食事の提供はありません。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		他校舎のヒヤリハットの事例を共有する機会を設けています。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		委員会を設置し、定期的な会の開催、研修を行っています。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○				